

## 海浜の自然環境を守る会ニュース

第47号 2016年6月15日

663-8143 西宮市枝川町19-10 甲子園浜自然環境センター内 甲子園地区埋立事業対策協議会気付

<http://www.npo-koshienhama.com/>

## 第13回通常総会

5月8日(日)午前10時より、甲子園浜自然環境センターにおいて、第13回通常総会を開催しました。

西宮市より山本環境局局長、北野環境総括室室長、藤原環境学習都市推進課課長、仲井甲子園浜自然環境センター長のご臨席をいただき、出席33名、委任状28名で、総会は成立しました。

第1号から第5号まで全ての議案が滞りなく承認されました。新役員体制は以下のようになりました。

理事長 大西夏江

副理事長 泉敏夫、前野裕美子

理事 石埜和男、菅野雅一、白川政昭、高松眞一、  
中島徳郎、長村富美子、前田文信

監事 小川哲男、高橋良三

なお荻野敏雄前理事長、石野吉英前理事は体調不良のため退任、また初代理事長であった津田泰男理事は4月19日逝去なさいました。感謝と哀悼の意を捧げます。

## ごあいさつ

先日4月19日にご逝去されました初代理事長津田泰男様に哀悼の意を捧げます。長きに亘りご尽力下さいました。残された私達は力を合わせ、この甲子園浜を保全してまいりましょう。

大阪湾で唯一残された自然海岸です。現在も人々に愛され、授業の一環としても多くの学校が利用してくださっています。これから楽しい行事も催してまいります。

美しい甲子園浜で四季折々を皆様とご一緒に楽しみたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

理事長 大西夏江

## シギ・チドリ観察会

総会に引き続いて午後1時より、日本野鳥の会ひょうごの杉田義彦講師を迎えて、シギ・チドリ観察会を行いました。

甲子園浜ではめずらしいアマサギが2羽、飛来していました。



コアジサシ、キョウジョシギ、ササゴイ、キアシシギ、イソシギ、チュウシャクシギ、アオサギ、チュウサギ、カワウを見ました。

## 第9回大阪湾生き物一斉調査

6月5日(日)、夜来の雨で滑る危険があるテトラポット先の干潟ではなく、環境省の干潟再生事業で造られた新しい干潟に入りました。さらにセンター前の磯と特別鳥獣保護地区の砂浜とを調査しました。



講師の山西先生は、干潟で採取したホヤについて、幼生はオタマジャクシのような形をしていて、岩に泳ぎつくと以後は付着生活になり、もうその環境任せになる生物ですと、教えてくださいるとともに、新しい干潟に意外と生き物がいてよかったと言われました。阪口先生によると、甲子園浜は塩分が低く、センター前の磯は人の出入りが多いので生物にとって厳しい環境だが、それでもカニやゴカイが多く生息しているとのこと。

この調査の結果は、大阪湾の各地の水環境を把握する基礎資料になります。

「大阪湾生き物一斉調査 情報公開サイト」

<http://kouwan.pa.kkr.ml.it.go.jp/kankyo-db/life/>

## ふるさと甲子園浜

西宮市南部の武庫川団地に住んで36年が経つ。

働いていた時は一顧だにできなかった河口の風景を、今、春夏秋冬、日課のように眺めている。理由は3年前の冬、いきなり河口に舞い降りたホシハジロの大群に驚嘆したからだ。思わず岸辺に降りて数を数えていた。その数500羽以上はあると思われた。すると周辺の景色が次々と私の目に飛び込んできたのだ。西の空には六甲の山並みが連なり、遠く神戸の沖合が見渡せる。対岸には堤防沿いを歩く人やジョギングをする人がいる。やがて私も堤に沿って歩き始めていた。そして浜沿いに立つ甲子園浜自然環境センターに出入りするようになり、海の生物の展示物に見入っては感心し、係の人に説明を聞きながら、望遠鏡で渡り鳥を観察するようになった。「NPO法人海浜の自然環境を守る会」が主催する野鳥観察会にも参加し、四季折々の浜辺の変化を肌で感じるようになった。ユリカモメやヒドリガモ、オナガガモ、サギ類など様々な渡り鳥の名前を覚えた。きりっと立つアオサギの羽の色や目元の神秘的な青い色彩の美しさに感動した。

去年の11月、センターの1階で開催された「だいすき♡甲子園浜展」で、昭和46年兵庫県甲子園浜全面埋立計画に反対し、立ち上がった地域住民2004人を原告とする「甲子園浜埋立公害訴訟」（57年の和解成立に至るまでの苦難の闘いの歴史）を知った。また「海浜の自然環境を守る会」に参加し学習することによって、甲子園浜が大阪湾にある貴重な自然海岸であり、干潟がもたらす渡り鳥の大切な生息地であることも学んだ。何よりも「甲子園むかしばなし」の写真を見て思わずそこに幼い頃の私がいることを思い出した。母と一緒に夢中で砂を掘りおこし、アサリ採りに夢中になった潮干狩りの浜辺に私はいたのだ。貧しい生活の中で貴重なタンパク源だったアサリ、その時代には貧しくとも豊かな自然が浜に多くの恵みをもたらし、海産物も大量に取れ、たくさんの渡り鳥たちが飛来していたに違いない。わずか全長約2キロの砂浜と磯だからこそ、西宮南部にある唯一のこの素晴らしい甲子園浜の景観を守っていききたいし、もっとももっとみんなに知って欲しいと願っている。

NPO法人 海浜の自然環境を守る会会員 久保みえこ

## はまん婆のひとりごと マヒトデ

今年5月7日、磯の西端でマヒトデが捕れた。男の子が見せにきたのがきっかけで7個体を手にした。まだ5cm ぐらいなので10cmの成熟体の半分だ。2007年に初めて確認して以来9年ぶり。

このヒトデは日本で最も普通に見られる種で1980年頃までの書籍は「ヒトデ」とあり一般にヒトデと呼ばれた。後、発生学者によって体色が黄色なので「キヒトデ」と和名に。ところが写真のように茶色系青紫がかかったものなど黄色とは限らないということで「マヒトデ」が提唱されたという複雑な経緯がある。一番普通のものに「マ」をつけるのから私は「マヒトデ」と呼びたい。正確に言いたいならアムレンシスト。かっこいいね。

東山 直美

マヒトデ

マヒトデ 腹側



### 活動報告

- 4月8日 生き物調査グループ海藻調査
- 4月29日～5月8日 チラシ配り のべ22名
- 5月8日 第13回通常総会  
シギチドリ観察会 26名
- 5月22日 海浜清掃 101名 可燃ゴミ420kg、  
不燃ゴミ20kg(ヤマサ環境エンジニアリング調べ)
- 6月5日 第9回大阪湾生き物一斉調査 64名

### 活動予定

- 7月17日(日) 海浜清掃
- 7月31日(日) 南甲小PTA・青愛協生き物学習会
- 8月2日(火) 甲子園浜の虫学習会

☆☆☆ ホームページ開設しました ☆☆☆

<http://www.npo-koshienhama.com/>

Facebook もごらんください